

個性が出た オープンスクール動画!

例年、八月に行われる第1回オープンスクール。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来校型から動画配信型での実施となり、各科・コース、部活動の担当者が3/4分程度で動画を作成するようになりました。特に、アビリティコースは来年度新設のコースであり、来校型のオープンスクール型の魅力を中学生に伝えることが一番のテーマになりました。数分の動画でコースの特徴をしっかりとアピールするぞ、という意気込みで六月中旬から八月一日の動画公開日まで、作成に全精力を尽くしました。アビリティコースとしては、「全体説明」「情報デザイン専攻」「パフォーマンス専攻」「キャリアプランニング専攻」

OPEN SCHOOL 2020
 尽誠学園高等学校オープンスクール
 第1回オープンスクール オンライン動画配信型 **8/1**より配信開始
 第2回オープンスクール **11/14**より配信開始

衛生看護科
 特別進学コース
 情報デザイン専攻
 パフォーマンス専攻
 キャリアプランニング専攻

「夢のこうぼしーション」

アプランニング専攻」の計四本を各担当者が作成し、会議の場で視聴し、先生方から助言をもらい、先生方修正を、会議で視聴し、という行程を三回繰り返しました。

画作成。多くの中学生に努力の成果伝わり、アビリティコースで学びたいと尽誠学園高校の門をくぐる生徒が一人でも増えることを、願っています。



コロナ禍の防災教育

近藤政明先生

令和2年の防災訓練は避難訓練を伴わないものになりました。「密」を避けるためとはいえ、十分な内容にならないうちは残念です。昨年行った防火扉を開める避難訓練では扉を開ける際、足がつまずきそうになることに注意しなければならぬなど、映像だけでは気が付かなかった発見がありました。今年は1年生に校内の防火設備、避難設備について説明することが主な目的だったので、2、3年生には参考になることが少ない結果となりました。しかし、今年のコロナ禍での防災を考えたことは現実には起きていない問題でありまし

どうにかするのはないかと気がつきました。ところが情熱の教員免許を持つているが、いかかわらずネットワークの火種には疎く、他の先生方にアドバイスをいただく必要があるのではないか行えた次第です。

このように、積み重ねてきた経験が全く通用しないような状況に陥るとが現実存在し、それでもどうにかしてその状況を解決するしかないことを改めて実感しました。香川県は全国的にみて天災の少ないので、それに甘んじておこなう危険意識を持つことを生徒の皆さんが感じてくれればよいと思います。

DROP! **COVER!** **HOLD ON!**
 まず低く 頭を守り 動かない

シェイプアウト3つの合い言葉

集まれ高校生！ 読み聞かせボランティアに チャレンジしよう

コロナ禍で実施されるか不安でしたが、今年の八月五日・六日に予定通り、香川県立図書館で読み聞かせのボランティア活動が行われました。将来、図書館司書や保育士など絵本に関わる職業を目指している高校生が多く参加しました。本校からは2名参加しましたので感想を聞いてみましょう。

読み聞かせボランティアでは、始めは絵本のめくり方という初歩的なことから、最終的にはどのような工夫をすれば子どもたちに興味を持たせることができるかを意識して活動しました。

本番では、前半と後半に分かれてお、私たちは後半だった今年もコロナウイルスの関係で相変わらず集まらないうち、途中で泣き出してしまった子もいました。例年では前半の部を聞いてもう一度聞いてもらう集力は幼い子どもたちには、なかなか、リピーターが少ないと伺っていたので、私たちが読む際には、始めは前半の3割程しか集まってもらえなかった。しかし、私が絵本を読むにあたって、本が始まる前に、子どもたちに簡単な質問をして、あるフレーズのところではアクションを取り入れてもらうように興味を喚起したところ、子どもたちが前半部よりも元気に聞いており、みるみるうちに、子どもたちが集まってくる、始まるまで全然いかなかったにも関わらず、座るところがあつたという間になくなりました。そして、私はトップバッターだったので、後続く高校生たちも練習より自信を持って読んでいて、すごく評判がよく、私の機嫌がうまいくいつてよかったと感じた。このボランティアは、幼い子どもたちとのコミュニケーションを図り、聞いてもらえらるような工夫を考える良い経験となった。

三年六組 直井 恭太



読み聞かせをする本校の生徒

尽誠太鼓部 手話部 和太鼓と手話の 夢のこうぼしーション

本校の和太鼓部は年間30回ほどの演奏活動を行なっており、その中で祭礼行事参加や福祉施設訪問演奏などを通して教育活動を行なっています。

今年、感染症のためイベントが皆無の状態でした。そのため、部員たちが世の中のためにできることはないかと話し合いを重ねました。そこで福祉施設へ和太鼓で元気を届けることにしました。手段としてDVDなどという形にしている家族にも会いやすい利用者の皆様にもメールを送りたい一心で日々練習に励みました。

特に、高知県の聴覚障害者支援センターにDVDを送らせていただいた際、

もたちはは、リピーターが少ないと伺っていたので、私たちが読む際には、始めは前半の3割程しか集まってもらえなかった。しかし、私が絵本を読むにあたって、本が始まる前に、子どもたちに簡単な質問をして、あるフレーズのところではアクションを取り入れてもらうように興味を喚起したところ、子どもたちが前半部よりも元気に聞いており、みるみるうちに、子どもたちが集まってくる、始まるまで全然いかなかったにも関わらず、座るところがあつたという間になくなりました。そして、私はトップバッターだったので、後続く高校生たちも練習より自信を持って読んでいて、すごく評判がよく、私の機嫌がうまいくいつてよかったと感じた。このボランティアは、幼い子どもたちとのコミュニケーションを図り、聞いてもらえらるような工夫を考える良い経験となった。

三年六組 直井 恭太



鼓や手話を使い、これからも活動していきたいと思っています。